

## 〔5〕 歓 迎 ・ 交 流 事 業

### 1 歓迎セレモニー

#### (1) とかち帯広空港

##### PIF首脳・日本国総理

PIF首脳と麻生総理大臣がとかち帯広空港に到着した際、橋本外務副大臣、地元代表者、地元児童により歓迎セレモニーを実施した。

- ・日 時:5月22日10時56分(PIF首脳)  
5月22日11時50分(麻生総理大臣)
- ・場 所:とかち帯広空港エプロン
- ・出迎え者:橋本外務副大臣、高原副知事、砂川帯広市長、安田帯広市議会副議長、児童(帯広市立大正小、川西小、愛国小)113名

出迎えにあたっては、外務省、防衛省、道警、帯広市、帯広空港ターミナルビル株式会社などの関係機関と事前の調整を行い、帯広市内の小学校の児童による手旗の歓迎を行うこととした。

多くの関係者が空港制限区域内に入ることとなるため、安全確保に十分配慮するよう、関係機関と事前の調整を行った。



PIF首脳到着



麻生総理大臣到着

脳等を出迎えるとともに、地元帯広市の児童がPIF各国と日本の手旗により歓迎した。タラップから降り立った各国首脳は、地元代表者に言葉をかけられるなど、和やかな雰囲気の中でバスに乗車した。

PIF首脳は、羽田空港からチャーター機により、10時56分にとかち帯広空港に到着した。また、麻生総理大臣は、11時50分に、政府専用機で同空港に到着した。

到着後直ちにレシービングラインに橋本副大臣、高原副知事、砂川市長、安田市議会副議長が整列し、各国首



とかち帯広空港での出迎え

## (2) ホテル前

P I F 各国首脳と麻生総理大臣に、首脳宿舎となったガレリア・タワースイートホテルにそれぞれが到着する際、占冠村やホテルなどと連携して出迎えを行った。

### ① P I F 各国首脳

- ・日 時:5月21日12時28分
- ・場 所:ホテルアルファトマム「ガレリアスイートホテル玄関前」
- ・出迎え者:高橋知事、釣部道議会議長、小林占冠村長、鈴木占冠村議会議長、星野(株)星野リゾート代表取締役社長、近藤アルファリゾート・トマム取締役総支配人  
児童・生徒等(占冠村中央小学校、占冠村トマム小・中学校)92名、  
占冠村高齢者大学の皆さん118名

各国首脳の出迎えは、外務省、警察、ホテルと協議した結果、ホテル玄関前と沿道で行うこととした。特に、ホテル前の車寄せスペースが限られていることから、車両到着時の駐車場所の調整や、報道機関の取材位置、児童・生徒等の安全な立ち位置の確保などについて、前日まで入念に関係者で打合せを重ねた。

当日は、小雨模様であったが、到着予定時刻の30分前から、出迎え者のほか、占冠村民約200名がホテル玄関周辺で一行を待ち受けた。

12時28分、P I F 首脳夫妻と随員は、とちぎ帯広空港からバスで到着し、高橋知事、釣部道議会議長、小林占冠村長をはじめとする地元関係者に出迎えられた。地元の子供も達が笑顔で懸命に各国の手旗を振る姿に、到着した首脳は笑顔で応えられていた。

また、ホテル玄関入口には、高さ2mの大型雪だるまが2基設置され、各国首脳夫妻は、初めて見る雪に興味を示され、直接手で触れたり、写真を撮影したりするなど、思いがけない「北国のおもてなし」に感動されていた。



地元の子も達に応えるP I F 首脳



ホテルでの歓迎

この雪だるまは、冬の間ホテル内のトマム山(標高1,088m)の山頂付近に保存しておいた雪を、本サミット前日に山から降ろし、占冠村民が1日ばかりで制作したものである。北国とは言え、予想以上に雪だまるの溶けるのが早かったことから、ホテルスタッフが補修や排水を行いながらの出迎えとなった。



## ② 日本国総理

- ・日 時:5月21日12時28分
- ・場 所:ホテルアルファ・トナム「ガレリア玄関前」
- ・出迎え者:橋本外務副大臣、高橋知事、釣部道議会議員、小林占冠村長、鈴木占冠村議会議員、星野・(株)星野リゾート代表取締役社長、近藤アルファリゾート・トナム取締役総支配人、児童・生徒等(占冠村中央小学校、占冠村トナム小・中学校)92名、占冠村高齢者大学の皆さん 118名

出迎え方法は、PIF首脳と同様に、地元代表者のほか、占冠村民約200名が出迎えた。

PIF首脳到着時と同様に、小雨模様ではあったが、関係者は歓迎の手旗をもって、到着予定時刻の約30分前からホテル玄関前や沿道に待機した。

14時8分、麻生総理大臣が、とちぎ帯広空港から乗用車で到着された。総理は、橋本副大臣、高橋知事



地元の子供たちの歓迎 (提供:内閣広報室)

釣部道議会議員、小林占冠村長など地元代表者の出迎えを受けた。地元の子供達から握手を求められると、気さくに握手をされるとともに、雪だるまをバックに、地元代表者との記念撮影にも快く応じられていた。



雪だるまの前での記念撮影

## 2 夫人プログラム

### (1) 第1日目(5月22日)

次のとおり、第1日目の夫人プログラムが実施された。

- ・時 間:15時10分～17時15分
- ・場 所:占冠村コミュニティ・プラザ
- ・出席者:PIF首脳夫人9名(タランギ・ニウエ首相(PIF議長)夫人、トン・キリバス大統領夫人、モリ・ミクロネシア大統領夫人、トリビオン・パラオ大統領夫人、イエレミア・ツバル首相夫人、シクア・ソロモン首相夫人、ナタペイ・バヌアツ首相夫人、ジョイス・豪外務政務次官夫人、スレイド PIF事務局長夫人)、麻生総理大臣夫人、高橋知事、小林占冠村長
- ・内 容:着物体験、着物モダン・リメイク・ファッションショー、茶道体験

第1日目のプログラムについては、日本が誇る伝統的な衣装である「着物」や伝統文化である「茶道」の魅力を首脳夫人方に体験いただくという基本的な考え方に立って、外務省と道によりプログラムの検討を行った。

首脳夫人一行は、14時30分に宿泊先ホテルロビーで麻生総理大臣夫人と高橋知事の出迎えを受けたあと、専用バスで会場となる占冠村コミュニティ・プラザに向かった。車中では、PIF首脳夫人に本道の歴史や自然環境、観光などのガイドを行った。



ミニ雪だるまで首脳夫人を歓迎

15時8分、会場となった占冠村コミュニティ・プラザに首脳夫人一行が到着した。会場入口では、占冠村村民約60名と、冬の間地元の子供達で作ったミニ雪だるま40個が一行を出迎えた。首脳夫人は、ミニ雪だるまを興味深く手で触り、その感触を楽しんでいた。

プログラムは3部から構成されており、第1部と第2部については、コミュニティ・プラザの「多目的ホール」で行われた。

第1部では、麻生総理大臣夫人、高橋知事、小林村長による歓迎挨拶のあと、15時25分から45分間、全日本きものコンサルタント協会による着物着付けデモンストラーションが行われた。その後、首脳夫人全員に振袖の着付けを体験していただき、最後に記念撮影が行われた。





着物着付け後の記念撮影

続いて、16時10分から20分間、NPO法人富良野演劇工房会員をはじめとする富良野市民16名による、現代モード調のデザインを加え、リメイクした着物を、制作

者自らがモデルとなって披露する「着物モダン・リメイク・ファッションショー」が実演された。

ファッションショーの終わりに、出演者から首脳夫人に着物と帯を素材にした「手作りバック」が贈られた。

その後、16時30分から30分間、コミュニティ・プラザ「和室」において、占冠村の有志による茶道のお点前披露と茶道体験が行われた。締め括りに、麻生総理大臣夫人から首脳夫人に、夫人プログラム参加の記念として抹茶セットが贈られた。

茶道体験終了後、首脳夫人は、15分程度、コミュニティ・プラザの向かいにある道の駅「自然体感しむかっぷ」で、地元の特産品などの買い物を楽しまれた。



着物モダン・リメイク・ファッションショー



代表の篠原綾子さんが制作したバッグを贈呈



## (2) 第2日目(5月23日)

翌5月23日は、前日に引き続き次のとおり夫人プログラムが行われた。

- ・時 間:15時10分～17時15分
- ・場 所:アルファリゾート・トマム「VIZ スパハウス」・「ガレリア」
- ・出席者:PIF首脳夫人9名、麻生総理大臣夫人、高橋知事
- ・内 容:アイヌ民族舞踊体験、巻き寿司づくり体験

第1部のアイヌ民族舞踊体験では、(社)北海道アイヌ協会を通じて、「鶴川アイヌ文化伝承保存会」の舞踏などを披露することとなった。

9時25分、VIZスパハウス(巨大造波プール)に到着したPIF首脳夫人一行は、同保存会によるムックリ(アイヌの代表的な楽器)の音色で出迎えを受けた。

麻生総理大臣夫人の挨拶のあと、VIZスパハウスの波打ち際で、アイヌ民族の舞踏が実演された。その後、保存会からウポポ(座り歌)、フッサハロ(お祓いの歌)、ハラキ(鶴の舞)といったアイヌ舞踊とムックリ演奏が披露された。舞踊の最後には、保存会の方々の誘導により、首脳夫人方はそれぞれアイヌ民族衣装を羽織、保存会の方々と一緒になって輪踊りを体験された。輪おどり体験では、夫人方は裸足となって踊りの輪に加わり、時折それぞれの国の踊りを取り入れ、終始楽しみながら踊っていた。



伝統楽器ムックリの演奏



アイヌ民族舞踏(輪踊り)



アイヌ民族衣装に身を包んでの記念撮影

第2部は、「ガレリアスイート」の31階展望レストランに会場を移して、「星のや軽井沢」の西尾総料理長による寿司デモンストレーションと巻き寿司づくり体験が行われた。

寿司デモンストレーションでは、北海道の新鮮な海産物をネタに作った色鮮やかな握りの技やマグロを切る包丁さばき、太巻きの作り方などが総料理長より披露された。その後、首脳夫人方は好みのネタを使って細巻きづくりに挑戦され、総料理長の作った寿司と一緒に試食を楽しまれた。

最後に、ニウエのタランギ首相夫人から、麻生総理大臣夫人と高橋知事に、「日本国と北海道の歓待に対する謝意が表明され、遠く離れた国の者の中で心が通うような充実した素晴らしいプログラムのおかげで、今回の訪日がいっまでも心に残る思い出深いものになった」とお礼の言葉があった。

なお、第1部と第2部の会場の移動には、燃料電池ハイブリッドバスが利用された。その際、トヨタFC開発部の責任者から、「二酸化炭素を排出しない、静かである、振動がない」などのハイブリッドバスの特徴についての説明が行われた。説明後、首脳夫人から積極的に質問が出されるなど、環境に優しいハイブリッド車に対する関心の高さが伺われた。



燃料電池ハイブリッドバス



燃料電池ハイブリッドバスに乗車する首脳夫人



### 3 総理主催晩餐会

1日目の夜に、麻生総理大臣夫妻、PIF首脳夫妻、政府関係者、地元関係者などが出席し、総理主催晩餐会が開催された。晩餐会の最後には、アトラクションとして北海道の太鼓演奏とYOSAKOIソーラン演舞が披露された。

- ・日 時:平成21年5月22日19時37分～21時30分  
(アトラクション:21時～21時30分)
- ・場 所:ホテルアルファ・トマム レストラン「ニニヌプリ」
- ・出席者:PIF首脳夫妻、麻生総理夫妻、松本官房副長官、橋本外務副大臣、高橋知事、釣部道議会議員、鯉谷道議会副議長、小林占冠村村長、鈴木占冠村議会議員、砂川帯広市長、上野帯広市議会議員、川俣道町村議会会長、近藤北海道経済連合会会長、佐々木北海道経営者協会会長、飛田北海道農業協同組合中央会会長、佐藤ホクレン農業協同組合代表理事会長



麻生総理大臣によるスピーチ



タランギ・ニウエ首相によるスピーチ

総理主催晩餐会は、予定より少し遅れて19時37分からのスタートとなった。麻生総理、タランギ・ニウエ首脳のスピーチのあと会食に入った。料理はフランス料理のフルコースで、道産食材を使って北海道の四季をイメージした料理が提供された。



晩餐会



アトラクションについては、北海道らしい郷土芸能という観点から、十勝支庁管内の「帯広市郷土芸能平原太鼓」と、上川支庁管内の「YOSAKOI ソーラン旭川北の大地」による演舞を披露した。

最初に、「帯広市郷土芸能平原太鼓宗家」の奏者 12 名により、「揃い祈願太鼓」と「巴・彩り」の演奏が行われた。平原太鼓は、昭和 45 年に広大な十勝平野をイメージした太鼓演奏がきっかけとなって生まれた帯広市の郷土芸能であり、「帯広市郷土芸能平原太鼓宗家」は、帯広市内の中学生、高校生、会社員等で構成され、帯広市の氷まつりや国際親善市民の夕べ等各種イベント時に太鼓演奏を披露している。

続いて、「YOSAKOI ソーラン旭川北の大地」の 28 名により、「がしんてんきょう雅心天響」が披露された。平成 9 年に結成されたチームで、旭川市内の大学生、会社員などがメンバーとなっている。旭川市の成人式や冬祭りなど各種イベントの際に演舞しており、平成 20 年の YOSAKOI ソーラン祭りにおいて、準大賞を受賞している。



「帯広市郷土芸能平原太鼓宗家」による太鼓演奏



「YOSAKOI ソーラン旭川北の大地」による演舞

## 4 知事主催昼食会

太平洋・島サミットで来道されたPIF首脳等に、道民の歓迎の意を表するとともに、道内の各界代表者等との交流を図るため、次のとおり知事主催昼食会を開催した。

- ・日 時:5月23日13時30分～14時20分
- ・場 所:アルファリゾート・トマム「レストラン・ニニヌプリ」
- ・出席者:PIF首脳夫妻、随員、橋本外務副大臣、今津衆議院議員、佐々木衆議院議員  
道内選出国會議員、小原外務省参事官  
高橋知事、釣部道議会議長、鯉谷道議会副議長、北海道議会関係議員、道内行政関係者、道内経済・産業関係団体代表者
- ・概 要:開会、知事挨拶、橋本外務副大臣挨拶、乾杯(釣部道議会議長)、会食・懇談、答礼挨拶(PIF議長 タランギ・ニウエ首相)、閉会



知事主催昼食会は、予定より30分遅れの13時30分からのスタートとなった。

PIF首脳夫妻、国会議員、道議会議員、行政関係者、経済・産業関係者など83名が出席した。

「北海道ならではの食材を使った料理を楽し

高橋知事挨拶

しみながら、懇親を深めていただきたい」という知事の挨拶に始まり、橋本外務副大臣の来賓挨拶、釣部道議会議長の乾杯のあと、会食・懇談に入った。



橋本外務副大臣挨拶



釣部議長による乾杯

昼食会は、フランス料理のコースとし、ホテルの協力により、野菜や肉類、米、麦、日本酒、ワインなどは、可能な限り道産食材を取り入れたものを提供した。



また、全員の方に、北海道の味覚を楽しんでいただくことができるよう、PIF首脳夫妻の食事情報(アレルギー体質等)や前日の晩餐会での状況などを参考にしながら、直前までホテルと個別メニューの調整を行った。



知事主催昼食会メニュー表



北海道の畑と海からの贈り物(前菜)



北海道の自然と道民からの贈り物(デザート)



タランギ・ニウエ首相挨拶

昼食会の最後に、共同議長であるタランギ・ニウエ首脳から「今度は雪のある季節に訪れたい。北海道の皆さんによりよく伝えてほしい。手厚い歓迎に感謝の思いを込めて謝辞とする」と答礼の挨拶があり、50分間にわたる昼食会が終了した。

## 5 地元交流プログラム

太平洋・島サミットで来道されたPIF首脳夫妻と地元小学生との交流を図るとともに、地域の子どもの国際意識の高揚や国際理解教育の一層の充実を促進するため、地元交流プログラムを開催した。

- ・日 時:5月23日14時55分～15時35分
- ・場 所:アルファリゾート・トマム「VIZ スパハウス」
- ・出席者:PIF首脳夫妻、橋本外務副大臣、高橋知事、釣部道議会議長
- ・内 容:児童インタビュー、記念木へのメッセージ、島サミット子ども宣言

交流プログラムには、占冠村と上川地区と十勝地区の近隣の9市町の小学校の5、6年生の児童130名が参加した。あらかじめ市町村ごとに担当するPIFの国・地域を振り分け、市町村や教育委員会と連携して、参加児童に事前学習に取り組んでもらうことにより、PIF各国について子ども達に関心を持ってもらうとともに、首脳にインタビューする内容についてグループごとに検討することとした。

### 【参加児童の担当国・地域一覧】

国 名	担当市町村	参加学校数及び児童数
パラオ共和国	富良野市	9校(5～6年)16名
サモア独立国		
クック諸島	上富良野町	1校(5～6年)16名
バヌアツ共和国		
キリバス共和国	中富良野町	6校(5～6年)18名
ツバル		
ナウル共和国	南富良野町	2校(5年) 16名
トンガ王国		
ミクロネシア連邦	占冠村	2校(5～6年) 16名
ニュージーランド		
フィジー諸島共和国	帯広市	9校(5～6年)16名
ニウエ		
パプアニューギニア独立国	新得町	3校(6年) 8名
マーシャル諸島共和国	清水町	2校(5～6年) 8名
オーストラリア連邦	鹿追町	4校(6年) 8名
ソロモン諸島	芽室町	4校(5～6年) 8名

PIF首脳夫妻は、会場となったVIZスパハウスの入口フロアで、橋本外務副大臣、高橋知事、釣部道議会議長の出迎えを受け、「太平洋・島サミットポスター原画コンテスト」の入賞作品をご覧になりながら入場した。

最初のPIF首脳夫妻との交流では、児童が関心を持ったことや興味のあることについて直接質問したほか、自分達の住んでいる地域や学校での活動内容、将来の夢などを紹介した。



PIF 首脳夫妻と  
児童との交流



バヌアツ共和国首相夫妻



パプアニューギニア独立国首相



ツバル首相夫妻



フィジー諸島共和国特命全権大使



クック諸島首相



マーシャル諸島共和国大統領



ニュージーランド外相



ミクロネシア連邦大統領夫妻



パラオ共和国大統領夫妻



PIF事務局事務局長夫妻



サモア独立国首相



トンガ王国首相



キリバス共和国大統領夫妻



ソロモン諸島首相夫妻



オーストラリア連邦外務政務次官夫妻



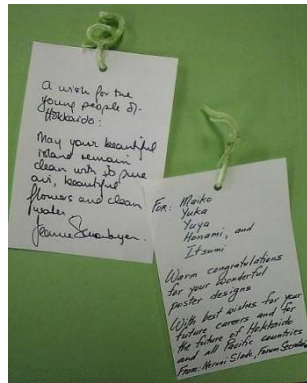
ニウエ首相



ナウル共和国大統領



記念木と首脳メッセージ



インタビュー終了後、首脳夫妻と参加児童が地球の未来への思いや願い事を短冊に書き込み、それを首脳夫妻と児童が一緒になって記念木に掛けた。この記念木には、北海道立林業試験場と北海道立林産試験場が共同で開発した二酸化炭素吸収能力の高い樹木・クリーンラーチを使用し、本サミット終了後、関係市町村においてそれぞれ定植が実施された。

交流会の最後には、占冠村の代表児童5名により「太平洋・島サミット子ども宣言」が披露され、交流会を締め括った。

初対面で、そのうえ短い時間ではあったが、PIF首脳夫妻、参加児童とも終始笑みの絶えない、和気あいあいとした雰囲気での交流会となった。



サミット子ども宣言を読み上げる代表児童

#### 「島サミット子ども宣言」

私たちが住んでいる地球には、美しい海や山があり、たくさんの動植物が生きています。

これからもこのすばらしい地球に住む世界の人々が幸せに暮らし、この青く美しい地球を守りたいという私たちの思いを込め、次のことを宣言します。

- ・私たちの大切なふるさとを守るため、水や空気など、限りある地球の資源を大切にします。
- ・使わなくなったものはゴミとして捨てるのではなく、分別してリサイクル資源として再利用できるものは活用します。
- ・日本と外国の人たちが仲良く暮らせるよう、たくさんの人たちと理解し合います。
- ・いま自分たちが太平洋の島国に何をできるかを考え、できることから行動します。

平成21年5月23日

太平洋・島サミット地元交流プログラム参加児童一同

その後、首脳夫妻は、参加児童、引率者、関係者の大きな拍手に包まれて会場を後にされ、玄関口では、橋本外務副大臣や高橋知事、釣部道議会議長が見送る中、首脳専用バスにそれぞれ乗車し、帯広空港に向かわれた。



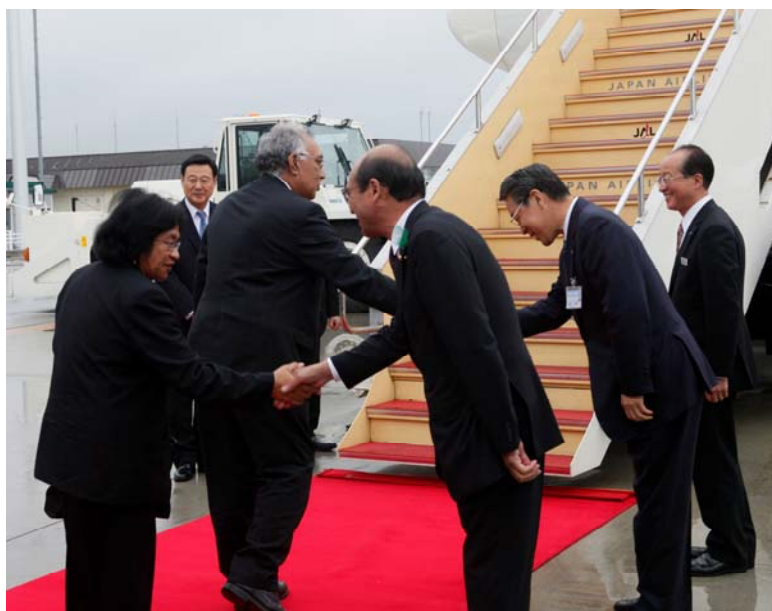
## 6 見送り

太平洋・島サミットが終了し、15時26分には麻生総理大臣と日本政府関係者、さらに、17時18分にはPIF各国首脳と各国政府関係者が、地元関係者の見送りを受けながらとち帯広空港からそれぞれ専用機で北海道をあとにした。

### PIF首脳・日本国総理

- ・日 時： 5月23日15時26分(麻生総理大臣)  
5月23日17時18分(PIF首脳)
- ・場 所：とち帯広空港エプロン
- ・見送り者：竹林十勝支庁長、道見帯広市副市長、安田帯広市議会副議長

レシービングラインには竹林十勝支庁長、道見帯広副市長、安田帯広市議会副議長の3名が並び、麻生総理大臣、PIF首脳を見送った。途中から小雨が降り出したことから、バス降車からチャーター機搭乗まで、航空会社が手配した傘を利用した。



とち帯広空港での見送り